

目 次

まえがき

執筆者一覧

本訳告書に関連した執筆者の業績一覧

1. ビデオマニュアルとは？

1.1. 映像による説明のいろいろ	1
1.2. ビデオマニュアルの目的と特性	2
1.3. 他の媒体によるマニュアルとの比較	4
1.4. ビデオマニュアルの改善に向けて	4

2. ビデオマニュアルの必要性

2.1. マニュアルの重要性と問題点	7
2.1.1. 「インタフェース問題」	7
2.1.2. 安全使用対策	7
2.1.3. マニュアル作成の問題点	8
2.2. ビデオマニュアルの登場と必要性	9
2.2.1. ビデオマニュアル登場の背景	9
2.2.2. ビデオマニュアルの必要性	10
2.2.3. まとめと課題	11

3. ビデオマニュアルの研究の可能性について

3.1. ビデオマニュアルの標識化と手順理解の支援	13
3.1.1. 理論・先行研究の概要・分析の観点	13
3.1.2. 分析と結果	16
3.1.3. まとめ	21
3.2. 説明の構造を可視化する	25
3.2.1. 先行研究の検討	25
3.2.2. 分析：説明の流れの可視化	27
3.2.3. まとめ	35
3.3. 説明内容に適切なショット	39
3.3.1. はじめに	39
3.3.2. 分析と結果	39
3.3.3. 考察とまとめ	46

4. ビデオマニュアル作成のためのガイドラインへ向けて―執筆者による座談会から

4.1. マニュアルについての考え方の変化	49
○商品のシステム性について	49
○ビールの中身とラベル	50
○サービス全体としての商品	51
○マニュアル問題は昔からあった	52
○インタフェース研究の流れ：本流と傍流	52
○マニュアル問題はものづくりへの態度変更を迫っている	54
○ものづくりの素地	56
○マニュアル問題は心理学者へも態度変更を迫っている	56
○リーダからユーザへ：リーダ像のシフト	59
○ここまでのまとめ	61
4.2. ビデオマニュアルのガイドラインの開発に向けて	61
○ガイドラインは世界で最初	61
○紙マニュアルのガイドラインはそのままでは使えないか？：3つのアプローチ	62
○ビデオはランダムアクセスできない	63
○説明ということを出発点にガイドラインを考える	63
○本筋と支線の示し方、トピックのシフトの示し方	64
○素材のつくり方：前工程が大事	66
○素材のつくり方：後工程も大事	67
○映像の扱いは感覚的にはできない	68
○自然につくり込むこと、そのための技法がある	69
○映像の技法集は意味がない	71
○ここまでのまとめ	71
4.3. ビデオマニュアル研究の今後	72
○技術継承のためにビデオマニュアルを必要としている分野がある	72
○ビデオマニュアルが有効な現場を探る	73
○ビデオは手続きを示すのに最適なメディアである	74
○商品システムとしてのビデオマニュアルの入れ子性	74
○健康教育・医療安全対策という現場	76
○映像で説明することの意義：ビデオマニュアルがたとえなくなっても	77
○ここまでのまとめ	78

資 料

ビデオマニュアルの書き起こし

1. オートペン	79
2. ヒューマペンエルゴ	87
3. ヒューマカート（キット）	93